



生葉で

赤紫を染める

～ 藍の生葉を醗酵させて染める ～

平成29年8月分

はじめに

今年は天候につきましても、自然の厳しさをまざまざと感じる思いがいたします。皆様被害等ありませんでしたか。

徳島では、藍の刈り取り、藍の葉の乾燥が始まりました。すくもに加工する為に良質の葉が必要です。藍の成分が多く含まれている一番に刈り取る藍から濃い色のすくもができますから、よく乾かして保存します。新居製藍所では、大きな機械で藍を切り、大型の扇風機で葉を飛ばし、茎と分けます。日に当てて箒で混ぜながら一日乾燥します。十分に乾燥するために、その後乾燥機に入れて仕上げます。出来上がった乾燥葉は、大きなカマスに入れて9月まで保存します。1回目の藍刈りが終わると肥料をやります。その後、1ヶ月くらい後に2番目の藍を刈ることになるので、その藍も乾燥し、一緒にして使用します。

皆さんの中ですくもを造りたいと思う方は、まず乾燥葉を採ってください。乾燥するには朝露がきれてから藍を刈ります。刈り取る時、根から10cmくらい残しておきます。晴天の日照りが強い日に、セメントの場所で乾かします。茎はある程度乾いてから、叩きつけたり、踏んで取り除けます。少量ですと、葉をちぎってもかまいません。また、4～5本ずつ軒下などに吊って乾燥させます。かさかさとするほど乾いたらポリ袋に入れて保存します。乾燥葉が3kg以上採れると、少量のすくも造りができます。葉が足りないと思う方は、今年は他の方法で藍を楽しみ、葉をためていつの日か体験してください。虫がつかなければ、2～3年置くことができます。

藍の成長

皆さんの藍も順調に育っていますでしょうか。

特にプランターで育てておられる方、葉が濃い緑色をしていますか。黄色みがかったものはありませんか。ひよろひよろと茎のみが大きくなって葉が少くないですか。プランターの上まで土が入っていますでしょうか。肥料や消毒も気をつけていますでしょうか。

畑で栽培されておられる方、畝の土がたっぷりと寄せられていますでしょうか。夜盗虫に噛まれて倒れた茎はありませんか。

1度目を刈ったら肥料を施すことが大切です。消毒は、野菜用のものを、肥料は硫安や4・8(ヨンパチ)という野菜用のものを与えます。9月の終わり迄に収穫を終えます。

生葉の湯漬け法

(参考) 染め見本、写真集①

染め見本を同封しています。取り出して見てください。

染まった布はコサージュに、ウールスライバーはフェルトにしようと思っています。今回お送りしたミニ本『藍草から染める8つの色』も参考にしてください。染め材やビニール袋(農業用ホース)は今回お送りしたものをお使いください。

材 料

- 藍生葉 500g以上(多いほど濃くなる)
※タデ藍又はリュウキュウ藍(見本は1kgの葉で染めました)
- 湯(40~80℃) 3ℓ
- 塩 50g
- ミヨウバン 20g

染め材

ナイロン布(1/4m×2枚)
ウールスライバー、真綿

容 器

ビニール袋(農業用ホース) 巾20cm×長さ120cm、

手 順

- ①ビニール袋の中に、タデ藍又はリュウキュウ藍の葉のみをちぎって500g以上詰め込む。(量が多いほど濃く染まる)
- ②その中へ、くしゃくしゃに揉んだ布を袋(三角コーナー用)に入れて、つめる。
- ③さらに、塩とミョウバンをビニール袋の右、左から別々に入れ、40～80℃の湯を3～3.5ℓ入れる。見本は80℃で作りました。(写真②)
(温度が低いと黄、水色が多く、高いと紫に染まることが多い)
- ④ビニール袋の両端を3～4重に折りたたみ、ビニールテープで貼ったり、洗濯ばさみで留めたりして水が漏れないようにガードする。(写真③)
- ⑤箱や、壁にもたせ掛けるようにして、両端を上上げるようにしておく。置く場所によって、葉の発色が違う。(陽の当たる所では早く色が出る。お風呂場など涼しくて陽の当たらない所ではゆっくりといろいろな色が出る)
- ⑥5～7日くらい置き、外から色を見て好みの色になれば取り出し、水洗いをして干す。(見本は屋外に置き、6日目に取り出したもの)

醗酵煮染め法

(参考) ガイドブック126頁、染め見本、写真集②

湯漬け法は、液を煮出さないで染める方法でしたが、今回はより赤く染めるために、醗酵した液を煮出して染める方法をご紹介します。写真集②を参考に体験してください。この方法は、土用の暑い時に行うと茶色になります。8月終わりから9月の初め頃、少し暑さが落ち着いてからにしましょう。土用以外なら陽に当ててもいいです。

材 料

- 藍全葉 1～2kg
- 水

染め材

木綿、絹、ナイロンなど(各スカーフ程度の大きさ)

容 器

蓋付きポリバケツ（藍全葉が入るもの）、鍋

手 順

①タデ藍の茎葉を刈り取り、刻んで空の蓋つきのポリバケツに入れて5日間置く。（写真①）中の温度が上がり醗酵します。

（注）途中で絶対蓋を取らないこと。途中で開けてしまうと失敗する。テープなどで留めておくと良い。

②5日目に蓋を開け、水を入れる。水の量は草がひたひたになるくらい（写真②）水が多いと色が薄くなる。

③水を入れてからさらに2日置く。

④液の色が薄い緑になっていたら、漉して鍋に入れる。（写真③）

⑤火にかけ、強火で煮出す。黒い泡が出ますので、表面の泡を取り、どんどん沸かします。液の色がさっと赤く変われば成功です。（写真④）布を入れて5分くらい煮ながら染めます。

※ 泡が出なくなっても液が赤くならない時は醗酵が足りない。また、液を長く置き過ぎると、緑色ではなくベージュ色になる。それは、赤紫でなくベージュ色に染まる。この方法は、醗酵の時間を見極めるのに経験が必要とする。

醗酵に成功すると、目の覚めるような赤紫が染まります。

生 葉 の 紫 染 め

リュウキュウアイ、またはタデ藍の葉っぱ50枚以上を鍋に入れます。水をヒタヒタに入れて煮出します。水色がシルクで染まります。沸いてから20分くらい煮出すと色が紫色になります。シルク・ナイロンを染めると紫色になります。

【 同封したもの 】

- ナイロン布 1 / 4 m
- オーガンジー布 1 / 4 m
- ウールスライバー 50 g
- ビニール袋 (110 cm)
- ミニテキスト「藍草から染める8つの色」
- 写真集 ①, ② (A4用紙に写真を印刷したもの)
- 資料1枚「藍の生葉で七色に染める」

※その他、ナイロンストッキングや絹布等いろいろ試してみてください。ただしポリエステルは染まりません。